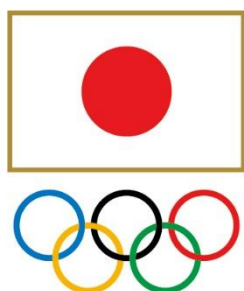


第5回 北海道・札幌2030 オリンピック・パラリンピック プロモーション委員会

会 議 録

日 時：令和4年（2022年）10月27日（木） 午前9時00分 開会

場 所：札幌グランドホテル 2階 グランドホール（西）



北海道・札幌

冬季オリンピック・
パラリンピック
の招致を目指しています



1. 次第1：開会・岩田会長挨拶

事務局 みなさん、おはようございます。開始時間となりましたので、只
(梅田スポーツ局長) 今から「第5回北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会」を開会いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます、札幌市スポーツ局長の梅田です。どうぞよろしく願いいたします。

なお、本日の会議も、ペーパーレスな会議といたしますので、ご協力をよろしく願い申し上げます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、岩田会長より、ご挨拶をお願いいたします。

岩田会長 はい、おはようございます。岩田でございます。皆様におかれましては、お忙しいところまた早朝からお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

プロモーション委員会では、これまで「共生社会」「レガシー」「SDGs」「経済・まちづくり」の4つのテーマをもとに大会の開催意義について議論を重ねてまいりました。

第5回目となります本日の会議で、一旦の整理をしたいと考えておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いをいたします。

また、大会の開催の意義を市民、道民、国民に広く発信をしていくために、招致の目指す方向性を一言で表す「招致スローガン」の策定に向け、ワーキンググループで議論を重ね候補を絞り込み、インターネット等を通じまして一般の皆様から広く意見を募集をしてまいりました。

本日、ワーキンググループからスローガンの最終案の報告がございますので、プロモーション委員会として最終決定をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いを申し上げまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

事務局 ありがとうございます。

(梅田スポーツ局長) 次に、本日の出席者でございますが、お配りさせていただいた委員名簿のとおりでございます。

なお、鈴木副会長の代理として小玉北海道副知事が出席されております。

また、太田雄貴委員、荻原委員、片山委員、竹中委員、伊達委員、文字委員、渡邊委員は、本日も欠席でございます。

それでは議事に入りたいと思いますが、議事進行につきましては岩田会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

岩田会長

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日は、プロモーション委員会終了後に、引き続き「招致スローガン」の記者発表を行う予定にしておりますので、会議は1時間程度の開催を見込んでございます。ご承知おきをいただきたいと思います。

それでは、早速ではありますが、議事に入ります。

室伏顧問、どうぞご発言ください。

室伏顧問

みなさん、おはようございます。

(オンライン)

早速、手を上げさせていただきました。

議事に入る前に、このタイミングで岩田会長よろしいでしょうか。

岩田会長

はい、どうぞよろしくお願いいたします。

室伏顧問

ありがとうございます。顧問を務めさせていただいておりますスポーツ庁長官の室伏広治です。冒頭、時間をいただきます。よろしくお願いいたします。

(オンライン)

昨今、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、元理事の汚職事件事案が大きく、今報道されているところですが、本件については現在捜査の途上であり、関係者が捜査に協力し、事実関係を明らかになっていくものと考えておりますけれども、仮に不正が行われたとすれば、フェア、公正性が求められるスポーツの世界では決して許されるものではありません。

また、今回のような事案が発生したことは、多くの方々に大きな失望感を与えており、今やスポーツ界には厳しい視線が向けられて

いることを自分事と捉えて、危機感を持って重く受け止める必要があると考えています。

そこで先日ですけれども、今月17日に開催されました「スポーツ政策の推進に関する円卓会議」において、JOC山下会長、JSP0伊東会長、JPSA森会長、JSC芦立理事長、そして私の5者で、こうした状況について危機感を持って重く受け止め、国民の皆様から信頼の回復に向けてスポーツ界全体で一致団結、取り組みを進めていくことを確認し、お手元にあります決議を取りまとめさせていただきました。

加えまして、円卓会議の間では、JOC山下会長から今後の大会に関して、組織運営のあり方等についてスポーツ界が一体となって議論をしていく必要性について、スポーツ庁として、2030年札幌大会をはじめ、大規模な国際競技大会の円滑な開催に向けて関係団体と連携協力していきたいと考えております。

ぜひともプロモーション委員会の委員の皆様におかれましても、今般の決議の趣旨や内容についてご理解をいただきまして、ご支援ご協力を賜ればと思います。

お時間をいただきまして、ありがとうございます。

岩田会長

室伏顧問ありがとうございました。

山下会長代行

岩田会長、私からも発言をよろしいでしょうか。

岩田会長

はい、どうぞ。

山下会長代行

ありがとうございます。おはようございます。

前回のプロモーション委員会の際に秋元市長とともにですね、宣言を取りまとめ、そしてご報告させていただきました。

宣言では、東京2020大会組織委員会元理事の汚職事案によりましてオリンピック・パラリンピック全体のイメージが大きく損なわれている、このことを十分に認識し、運営面における改革への取り組み、透明性、公正性をしっかりと示していくことが必要であり、今後、スポーツ団体ガバナンスコードに照らして、組織委員会・理事会のあり方、利益相反取引の管理、それからマーケティング事業の

あり方、これについて検討していく姿勢を示させていただきました。

これを受けまして、先ほど室伏スポーツ庁長官よりご報告がありましたとおり、スポーツ政策の推進に関する円卓会議、こちらにおきまして、今回の汚職事件を踏まえ、オリンピック・パラリンピックに限らず多くの国際競技大会の組織委員会の設立を担うスポーツ界全体にとりまして、先日の宣言文も踏まえた取り組みを進めていく、このことが必要であると、こういう決議文が取りまとめられました。

この検討をより具体的に進めていくために、円卓会議におきまして、スポーツ団体、ガバナンスコードに照らした組織委員会のガバナンスのあり方、それから民間団体ではあるものの、公益性が高く、しかも公的試験の受け皿としての説明責任が求められる組織委員会におきまして、情報開示のあり方、これについてスポーツ界全体で議論することの必要性を提案いたしました。そして、ご了承いただきました。

現在、スポーツ庁と今後の進め方、これについては相談をしているところでありますけれども、11月の半ばをめどにですね、スポーツ団体、弁護士、それから公認会計士等の専門家、それから札幌市をはじめ、今後予定されております国際競技大会関係者等にも、ご協力いただきながら検討を開始したいというふうに考えております。

このプロモーション委員会の委員の皆さんにおかれましても、ご理解ご協力いただきますようお願いいたしますとともにですね、お気づきの点がございましたら、事務局を通じてお知らせいただければとこう思っている次第でございます。

以上です。ありがとうございました。

岩田会長

ありがとうございました。 はい、秋元会長代行、どうぞ。

秋元会長代行

札幌市長の秋元でございます。今の室伏長官、そして山下会長からもご発言がありました。

クリーンな大会に向けた取り組みということでご発言がございましたが、私からもご発言をさせていただきたいというふうに思います。

今、2030の大会の招致を目指して進めているわけでありますけれども、この招致を実現するにあたっては、市民、道民、そして国民の支持ということが非常に重要だというふうに思っているところがあります。

そういう意味では、招致段階から大会の運営に至るまで、透明性、公正性ということがしっかり担保された大会であるということを発信していくということが非常に重要だというふうに思っております。

そういう意味では、この東京2020大会にかかわる事案事件、捜査中ということでありまして、終結といいますかまだ方向性がはっきりと見えていない状況ではありますけれども、現時点から具体的な検討していくということが重要なのではないかというふうに考えているところがあります。

先ほどお話ございましたように、9月8日にJOC山下会長とともに、クリーンな大会を目指すということを決意を表明させていただいたところでありますけれども、このたび、山下会長のご発言のとおり、11月の中旬をめどにして具体的な検討が開始されるということでありますので、札幌市といたしましても、この検討に積極的に参画をして、JOC等と連携をしながら透明性、公正性の高い組織運営の実現に向けた検討、このことをしっかり進めていきたいというふうに思っております。

今こそ、多くの国民の皆さんが抱えている疑念や不安ということの解消に努めていかなければ、招致自体が極めて難しくなるという大変厳しい危機感を持って対応していきたいというふうに考えておりますので、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げたいと思います。ありがとうございます。

岩田会長

はい、ありがとうございました。

只今、お三方からご発言をいただきましたが、この件につきまして、皆様から何かご発言はございますでしょうか。

はい。荒井委員どうぞ。

荒井委員

荒井でございます。プロモーション委員でもありますが、国会議員でもありますので、ここは国会ではありませんが、一言だけ申し上げさせていただきたいというふうに思って、今日札幌に戻ってまいりました。

本来、機運を醸成するためというふうにつくられたこのプロモーション委員会で5回議論を重ねてくる中でですね、やっぱり今回の事案に対するスポーツ界の皆さんの動きが遅かったんじゃないかっていうのは、どうしても言わざるを得ないというふうに思っております。

11月中旬からスタートするということではありますけれども、本当だったらもっと夏ぐらいからスタートしていけば、こういった取り組み、まさに今後に向けた取り組みにですね、機運醸成に対して、やはり地元札幌とスポーツ界とがもっと一体化してやれたんじゃないかという気持ちがしておりますので、どうぞ速やかに、そして徹底した取り組みを行っていただきたいというふうに切に思っております。

この場は国会ではないので、これ以上のことを言う話ではないとは思いますが、でも、本当に地元の札幌の人たちは大変やきもきしながらスポーツ界の皆さんの取り組みを待っているというところがあるということは、ぜひ一言ここで申し上げたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いします。

それ以外のことは、今度、文科委員会でちゃんと話したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。以上です。

岩田会長

はい。ありがとうございます。

そのほか、ご発言の方はいらっしゃいますでしょうか。

はい。それでは本件につきましてはここで終了させていただきますが、引き続き、クリーンな招致活動に取り組んでまいりますの

で、よろしく願いをいたします。

2. 次第2：大会開催意義の取りまとめと今後の活用について

岩田会長 次に、次第2の「大会開催意義の取りまとめと今後の活用について」でございます。

はじめに、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは事務局よりご説明いたします。

(梅田スポーツ局長) 画面表示の他、お手元のタブレットの画面、あるいはメールにてパワーポイントの資料もお配りしておりますので、ご確認を願いたいと思います。

はじめに、前回第4回目の会議の振り返りについてでございます。

前回、「SDGs／経済・まちづくり」をテーマに、皆さまからいただいたご意見を内容に応じて分類・整理したものをお示ししてございます。

「気候変動とウィンタースポーツの危機」、「アスリートが人々の意識にもたらす好影響」、「人々やコミュニティーを巻き込んだ気候変動対策」、「SDGsの達成と大会開催に向けたまちづくり」の4つの内容が主な意見でございました。

次に、「大会開催意義の取りまとめ」についてでございます。

事前に案を送付させていただいており、また、事務局説明資料の中に入れておりますが、このたび、第1回目から第4回会議での皆さまのご意見を整理をいたしまして、「大会開催意義の取りまとめ」を作成しました。

最初に全体構成でございますが、大きく第1編、第2編と別れておりまして、第1編では、この後ご説明をいたしますが、第1章で「招致スローガン」を、第2章で「大会コンセプト」を掲載をしてございます。

なお、招致スローガンは、本日決定をいただきますことから、最終案では、まだ未掲載となっております。

続く第2編は4章立てにしておりまして、これまでの各委員から

のご意見を分類・整理をし、開催意義を網羅的にまとめた内容としてございます。

次に、第1編・第2章の「大会コンセプト」についてご説明をいたします。

これまでの各委員からのご意見を踏まえ、開催意義のポイントを端的にわかりやすく発信をするため、大きく3つに整理いたしました。

一つ目は「環境」をテーマに、「天然雪を守り、北海道・札幌から、世界に誇れる大会に。」

二つ目は「共生社会」をテーマに、「私が自分らしく生きられるまちで、社会で、誰もが参加できる大会に。」

三つ目は「変革」をテーマに、「北海道・札幌が挑戦する、私たちの新しい大会に。」といたしました。

その他として、前回の委員会でご確認いただきましたJOCと札幌市による「クリーン大会宣言」についても、参考として掲載をしております。

次に、「大会開催意義の取りまとめ」の今後の活用についてご説明をいたします。

横軸は2030年までの時間軸を表しておりますが、現在の招致段階においては、11月に公表を予定している「大会概要（案）更新版」など、現在の取組みに速やかに反映するほか、開催地決定後は、大会組織委員会での計画や取組みに反映いたしますとともに、並行して、「地域のまちづくりへの反映」といたしまして、札幌市のまちづくり計画などに反映をしております。

事務局からの説明は、以上でございます。

岩田会長

はい、ありがとうございました。

それでは意見交換に入りたいと思います。ご意見・ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

はい、永瀬委員どうぞ。

永瀬委員

皆さん、おはようございます、永瀬です。

コンセプトというのが今回ポンといきなり出てきて、今までの開催意義っていうところがあって、同じような形でコンセプトとあって、コンセプト3つ、意義が4つで7つになって、何かいっぱいになって読むのが大変だなと。

なかなか関心のない人に、このいっぱいを伝えるのをどうやって伝えようかなってというのが、何かうまく整理できると、端的にうまく伝えていけると、良いのかなというふうに思います。

ちょっと細かいところに行くんですけども、コンセプトの中の真ん中の共生社会的なところの文言で、「初のパラリンピックでバリアフリーを進め」という文言があるんですが、もちろん札幌で初めてのパラリンピックは事実ですし、バリアフリーは進めなければいけないんですけども、特に私、当事者的にはですね、ちょっと消極的というかですね、残念というか、もっと未来に向かっていける言葉の方がいいのかなと。

私20年以上前、1998年の長野パラリンピックに出場しましたが、その時も、初のパラリンピックでバリアフリーを進めようと、テレビで商店街がバリアフリーになりましたってニュースをやっていたんですよね。その時と同じでいいのかなと。

今でも20年以上、2030年になれば30年以上経って、20世紀に長野がやっていたことと同じことを目指すのかなというところで、この東京大会が去年あって、そこでのレガシーをさらにプラス10年進めていくっていうところの部分で、このバリアフリーを進めますっていうのは永遠に変わらない言葉で、この言葉は言っていれば良いことを言ってるみたいな感じで使われてしまってるので、ではどうしていくのかというところで、東京大会はアクセシビリティという言葉がずっと使ってきたんですね。

バリアフリーという言葉は、1994年にバリアフリーに関する法律が日本で初めてできましたけれども、なかなかバリアフリーとなると行政的には、特に法律に基づくと、車椅子で行けるかどうか、0か1かっていう部分しか求めていなくて、IPCのアクセシビリティガイ

ドラインというのは、障がいのある人もない人も、同じような権利、同じような選択の中で楽しめるかと。

近くて見たい、遠くで見たい、右から見たい、左から見たいと、そういったところを求めていこうっていうところが、日本のバリアフリーの特に法律より進んだガイドラインというところで東京大会をやってきていて、もちろんそれは委員のいろんな委員からの発言もずっと出てきて、詳細に出ているので、そういったところの文言を使ってやっていく方が未来志向というか、さらに今の日本の法律よりもっと先を目指すんだなというそういう先進的な文言になるんじゃないかなというふうに思います。

以上です。ありがとうございます。

岩田会長

はい、ありがとうございます。

只今の意見について、事務局、お願いします。

事務局

はい、ご意見ありがとうございます。

(梅田スポーツ局長)

文言については、確かにご指摘のとおりのところだというふうに思いますので、最終的な表現について、事務局と会長の方で調整をさせていただきたいと思います。

そして、皆さんにご確認をいただきたいというふうに思います。

岩田会長

そういう事でよろしゅうございますか。 はい。

その他、ご意見、ご発言の方はいらっしゃいませんか。

井本委員、どうぞ。

井本委員

まずは札幌市の皆様、そしてJOCの皆様、このように絞り込みを

(オンライン)

していただきまして、本当にありがとうございました。すごく大変な作業だったと思います、感謝申し上げます。

すごくちょっと細かいところなんですけれども、コンセプトの同じく2つ目のところなんですけれども、ちょっと引っかけたのが「ジェンダー平等を広げ」というところで、あまりこういう言い方はしないのかなと思っておりまして、「ジェンダー平等を達成するもの」だと思うので、ジェンダー平等を広げと言うのは、ちょっと文法的に何か引っかけりがあるって、達成するというところまで言い

切れるかどうかというのは難しいところかなと思うんですけども、見直しをお願いしたいと思います。

あと、3つ目なんですけれども、まだ少し何となくはっきりしないかなというふうに私はちょっと感じを受けました。

おそらくクリーンな大会とか、そういうところかなと思うんですけども、皆さんのご意見はいかがでしょうか。以上です。

岩田会長

はい、ありがとうございます。事務局、ありますか。

事務局

はい、貴重なご意見ありがとうございます。

(梅田スポーツ局長)

ジェンダー平等のところの表現については、先ほどと同じように、ちょっと表現の方は工夫させていただきたいと思います。

それから、クリーンな大会ということはこのコンセプトの中に入れるかどうかというところは、正直迷ったところではあるんですけども、大会の開催意義・コンセプトそのものということと、クリーンな大会ということは逆にちょっと分けて、その他ということで、今回はクリーン大会宣言というのを独立させて表現したというのが、この事務局案の作成に至るまでの経過でございます。

以上でございます。

岩田会長

はい、よろしゅうございますか。それでは、菅谷委員どうぞ。

菅谷委員

岩田会長をはじめ、関係者の皆様に対し、ここまで資料をまとめていただいたことに大変感謝申し上げます。

(オンライン)

資料は分かりやすくまとめていただいております、共感するところも多いです。

先ほどもご意見がございましたが、やはり「クリーン」という点がすごくフォーカスされてしまっており、本来の目的であるオリパラ開催の良い効果という部分をもう少し盛り上げていくべきではないかと思います。

会合の冒頭にお話があったように、国民感情がマイナスの方に向きがちなところを変えていく力というのは、今まで以上にPRをパワーアップさせないといけないと思っております。

幸いにも、この2030年という年が、国、世界が目指しているSDG

sの目標年でもあり、その時にどのようにして世界に誇れる大会を開催できるかが重要です。この「誇れる」という点がとても曖昧になっているかもしれないと思いますが、誇れることは何かということ、バリアフリーをはじめとして、いくつか複数のコンセプトを様々な形で提言していくということも一つの方法ではないかと思います。

例えば、今、足もとで起きている問題への対応を超えて、さらに前を向いていくようなコンセプトの打ち出しをできると良いと思いました。

岩田会長 はい、ありがとうございます。事務局、何かありますか。

事務局 はい。ありがとうございます。この世界に誇れる大会、ターゲット
(梅田スポーツ局長) トによって色んな訴え方っていうのはあるというふうに思っています。これから次のステージに上がっていけば、やはり世界向けに北海道札幌のオリンピック・パラリンピックの大会が、どういう大会かというアピールポイントというところを重点的に訴えていきたいというふうに思っています。

今回まとめさせていただいたコンセプトと言う意味では、今までいただいた意見を網羅的にできるだけ短く表現したということですので、今後使う場面場面によって、そこは強調するポイントというのを強調しながら訴えていきたいというふうに事務局としては考えてございます。ありがとうございます。

岩田会長 はい、その他何かご意見はございますでしょうか。

はい、それでは修正につきましては、私と事務局にご一任をいただきますまして、最終版をメール等で確認をさせていただいた上で、後日、最終公表をさせていただきますので、ご了承をいただきたいと思います。

よろしゅうございますでしょうか。(異議なし)

はい、ありがとうございます。それではご了承いただけたということにさせていただきます。

さて、これまでの議論で大会の開催によりまして目指す社会のイ

メージを具体化し、発信することが大事という意見がございました。

そこで札幌市では、未来のまちの姿を共有するための映像を作成いたしましたので、秋元市長よりご紹介をいただきます。

秋元会長代行

ありがとうございます。現在の札幌市ではですね、今後 10 年後のまちづくりに向けて基本的な指針となります「まちづくり戦略ビジョン」というものを策定してございます。中長期の計画ということです。

その中で、目指すべき都市像ということをもとめたビジョン編につきまして、先日の市議会での議決を経まして、策定をしたところでございます。

このビジョン編つくるにあたりましては、小学生からご高齢の方までたくさんの市民の皆さんにワークショップなどで参画をいただいて作ってきまして、多くのご意見をいただいた中で策定を進めてきたところであります。

こういった意見を踏まえまして、大学あるいはその企業経営者、経済団体の方々、有識者の方々にお集まりをいただいて、審議会で議論をいただいてきたところであります。

その結果、3 つの重要概念ということはこの一つのキーワードとして、お示しをいただきました。

ひとつは、「ユニバーサル（共生）」ということ、もうひとつが「ウェルネス（健康）」、そして「スマート（快適・先端）」という 3 つの重要概念ということでございます。

「ユニバーサル（共生）」は、誰もが互いにその個性や能力を認め合って、多様性が強みとなる社会を目指しましょうということ。

「ウェルネス（健康）」では、誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会、これを目指していこうと。

「スマート（快適・先端）」では、誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会を目指していこうということを表しているわけでありまして。

この3つの概念が、先ほどいろいろコンセプトがございましたけれども、2030年大会がもたらすレガシーということと非常に強く結びついてまいりますので、そして、このまちづくりを加速化させるための一つのきっかけとして、この2030大会を進めていこうということからですね。将来のまちの姿というもの、これは戦略ビジョンで目指すまちの姿ということを多くの人と共有しようということで、映像を短い映像をちょっと作成をいたしましたので、ここでそのイメージ映像ということをご皆さんにお示しをさせていただいて、共有をしていければというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

～ 映像を上映（2分30秒） ～

岩田会長

はい、ありがとうございました。

皆様のご協力の下で2030年大会の開催意義について一旦の整理を行い、取りまとめることができました。皆様のご協力に感謝を申し上げます。

議論をしてまいりました開催意義をいかに伝え、そして市民、道民、国民の理解促進と機運醸成を図るかが重要でありますので、引き続きご協力をよろしくお願いをいたします。

3. 次第3：機運醸成について

岩田会長

それでは、次に次第3の機運醸成について進みたいと思います。はじめに事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは事務局より説明させていただきます。

（梅田スポーツ局長）

右下に番号9と書かれたスライドをご覧ください。

まず、各種イベント等における機運醸成活動をご紹介します。

9月に東京都内で開催された「サッポロスマイルデー」では、招致応援大使でもある岡崎委員、狩野委員、太田渉子委員にご参加をいただき、トークショーやPRブースでのご協力をいただきました。

また、3年ぶりにリアル開催となりました、例年200万人以上訪れる北海道の食の祭典「さっぽろオータムフェスト」では、オリンピック・シンボルも配置されている大通公園にブースを出展したところでございます。

また、次のスライドでございますが、札幌マラソンでは、原田委員・狩野委員をはじめとする北海道オール・オリンピアンズ9名の皆様にご出走いただくとともに、トークショーも行いました。

また、経団連による大倉山ジャンプ競技場の視察の機会をいただきましたが、視察終了後には、十倉会長より「絶対に誘致しなきゃいけないという思いを強くした」との力強いコメントをいただいたところでございます。

また、次のスライドでございますが、北海道コンサドーレ札幌との連携によるPRや、太田雄貴委員、狩野委員、清水宏保さんにもご参加をいただき、札幌市内の商業施設においてパラスポーツ体験会とあわせて、招致PRイベントを行いました。

さらに、次のスライドでございますが、最先端の技術やアイデアの交流を促すことで新しい文化を生み出そうとするイベント「NoMaps（ノーマップス）」では、木村委員自らが札幌商工会議所青年部に働きかけ調整をいただいたことによりまして、オリンピアンによるオンライントークセッションや、札幌で初となるLEDスカイランタンを使った「さっぽろランタンナイト」による、招致PR活動が実現いたしました。

トークセッションでは、JOC アスリート委員会と、冬季産業再生機構の共同プロジェクトとして松田丈志さん、上村愛子さん、皆川賢太郎さん、太田雄貴委員、原田委員にご登壇いただき、雪と環境と産業、そして現在の2030年大会招致にも係る大変有意義なセッションが行われました。

当日の様子は、資料でご案内していますYouTubeのNoMaps公式チャンネルにおいて、近日中にアーカイブ動画として公開が予定されておりますので、委員の皆様におかれましても、ぜひご覧いただき

ますようお願い申し上げます。

また、次のスライドでございますが、JOC アスリート委員長である松田丈志さん、副委員長の高橋成美さん、それに三宅宏美さんのオリンピック3名が札幌招致PRのために市内の中学校を訪問し、オリンピック・パラリンピックの魅力と環境保全の重要性を伝える出前授業を行いました。

また、明後日29日のUHBカップジャンプ大会を始めとする、ウィンタースポーツ大会のほか、さっぽろホワイトイルミネーション、ミュンヘンクリスマス市 in SAPPORO、さっぽろ雪まつりと連携したPRなど、今後も大規模な集客イベント等を積極的に活用しながら、機運醸成を進めてまいります。

次に、市内各所における都市装飾についてでございます。北京2022大会で活躍したアスリート写真を活用したデザインによる装飾を、これまでの都心部に加えて、市内10の区役所やその他公共施設でも実施し、広く市内各所で展開しているところでございます。

次に、ワークショップの開催についてです。

若い世代に、大会の開催意義や将来のまちの姿を考えてもらう機会として、ワークショップを8月から開始をしております。

大学などを対象に今月までに計17回実施し、延べ375名の参加をいただきました。

ワークショップで得られた若い世代のご意見につきましては、「100のアイデア」として、札幌市が11月公表予定の「大会概要(案)更新版」に盛り込み、市民がより共感できる計画を目指してまいります。

次に、ワークショップで出たアイデア例をいくつかご紹介いたします。

「スポーツ・健康」の分野では「ウィンタースポーツ版“甲子園”イベントを札幌に」。「経済・まちづくり」では「凍結しない線路を開発！さようなら遅延」。「社会」では「点字ブロックが無線通信で道案内」。「環境」では「電気自動車の普及率、国内トップクラス」

などのアイデアが出されたところでございます。

最後に、今後のプロモーション委員会の活動内容についてご説明いたします。

基本的な活動方針といたしまして、今後の「狙いを定めた対話」への移行を見据え、国内の機運醸成や理解促進を一層進めるため、取組みの方向性や、招致応援プログラムも含めた具体的なプロモーションについて、意見交換を行い、更に、狙いを定めた対話への移行後は、世界に向けたプロモーションも含めて、意見交換を行ってまいりたいと考えてございます。

事務局からの説明は、以上でございます。

岩田会長

はい、ありがとうございました。

招致活動の一環をご説明いただきました。

委員の皆様には大変なご協力をいただいておりますこと、感謝を申し上げたいと思います。

それでは、意見交換に入りたいと思います。

ご意見ご質問のある委員はいらっしゃいますでしょうか。

はい、荒井委員どうぞ。

荒井委員

ありがとうございます。札幌の方にしかちょっと伝わりにくいかもしれませんが、「NoMaps2022」というイベントがつい先日行われましたが、もう5年ほどやっていた企画だと思いますが、今年は特に素晴らしかったと思っております、そことコラボレーションしたっていうのは本当に良かったなと思っております。

こういう NoMaps みたいなイベントをもっともっとやっていくことが機運醸成、この実はこのイベントに目がけて、日本中からいろんな人たちがやってきたというふうに思っています。

特に若い世代、結構、業界の方々も来られたなというふうに思いますので、こういうイベントで。

ただ NoMaps は、毎年この秋にやっておりますので、まさに先程の札幌のビジョンで雪ということ、まさに冬にこういう NoMaps のようなイベントをやっていくことで、雪と親しみながら皆さんにその機運、

なぜ札幌でオリンピック・パラリンピックをやる必要があるのかというのを、まさに NoMaps のような取り組みでやっていく機会あるといいなというふうに思っております。

木村さんに、本当にいろいろご活躍いただいたと伺ってますので、ありがとうございました、以上です。

岩田会長 はいありがとうございます。

マセソン委員、先ほど手を挙げられておられましたけども。

ご発言をどうぞ。

マセソン委員 はい、先程の映像に関して一言意見を伝えさせていただきたいと思いきや、思い手をいたしました。

(オンライン)

大変イメージが伝わりやすいなとは思いましたが、アクセシビリティ、バリアフリーというような言葉をコンセプトに掲げる中で、例えば色のコントラストや、字幕など、そういった配慮が欠けているので、この映像だと伝えたいことが届かない人たちがたくさんいます。そういった映像が私たちのところで今提示をされているということに少し疑問を感じました。今後、制作物を提示される時には、そういったアクセシビリティの観点というのも気を使っていただけたらなというふうに思いました。

ありがとうございます。以上です。

岩田会長 では、秋元市長。

秋元会長代行 ありがとうございます。

ご指摘のとおり、やはりいろいろな方々へきちっと情報を伝えていく手段、そのことに意を尽くしていきたいというふうに思っております。ありがとうございます。

岩田会長 それでは、菅谷委員どうぞ。

菅谷委員 改めて、これだけたくさんのイベントを皆さんが開催してくださっていたことに深く感謝申し上げます。こういったことに実際に取り組んでいくことがまず一番大事なことだと思います。

(オンライン)

私は今東京にいるのですけれども、やはり北海道・札幌のイベントということではなく、国をあげてのイベントだということをもう

少し強調していきたいと拝見して思いました。

先ほどの映像にありましたように、経団連の幹部の方々が、大倉山ジャンプ競技場を実際に視察されたことについても、やはり現場を実際に見るのと話を聞くのとでは全然違うと思っており、その場を体感していただき、その数を増やしていくことは、大変重要であり、北海道在住以外の方も自分事として捉えられるのではないかと思います。

あと先ほど荒井委員がおっしゃっていたとおり、このプロモーションを行っている時期が夏なので、冬の北海道の魅力という点をもっとよく理解してもらうことも重要であり、北海道の観光は夏場に人気が集まりがちなのですが、冬の北海道の魅力を伝えるような、これから迎える冬のイベントでの打ち出し方もすごく大事だと思いましたので、引き続き発信に取り組んでいけたら良いと思いました。

岩田会長

はい、ありがとうございます。その他、ご意見の方。

はい、永瀬委員どうぞ。

永瀬委員

再び失礼します。いろいろ事務局が企画に動かれて結構大変だったのではないかなと思います。ご苦労さまです。

このプロモーション委員会ができて半年ぐらい経ちますけども、ずっと開催意義を中心に話しをしてきて、せっかく各方面の素晴らしい方々が集まっているので、もっと、どういう機運醸成を具体的にやっていくかというのも、これからもっと具体的に話ができるの良いのかなと思いました。

毎回事務局から機運醸成の話があるんですけども、「こういううちわを作りました」、「ブース出しました」という毎回事務局の報告を聞いているだけの機運醸成なので、事務局の報告を委員会で聞いているだけでは、この委員会は何のために機運醸成するのかなと(いう思いが)あるので、やっぱりすごく皆さんも日々こうやったらいいんじゃないかなと思っていることもあると思うので、そんなところを次回からは、具体的に多分それぞれの分野でスポーツ界・経済

界的の方々がいるので、「こんなことをもっとやってみよう」「こんな企画をやってみよう」っていうところが、話しをしていけるとどんどん盛り上がって楽しいんじゃないかなと思います。

具体的に色々やられているんですけども、前回というか前も言いましたけど、SNS ももっと使えると良いのかなと思っています。

毎日私も日々チェックしているんですけども、私もブースだとそこに来られた方にしか発信できないですけども、SNS はお金かからないですし、毎日できるのですごく多数の方に（伝わると思います）。

多分、ブースだと割と賛成という方がブース来られますけど、多分 SNS の方だったら賛否両論の方々に届くんじゃないかなと思います。

日々いろいろ見ているんですけど、ツイッターはほとんどが、どここのイベントでブース出しましたっていうイベントばかりでして、事務局が頑張っているなっていうのが伝わるんですけども、ほぼ毎回同じような内容で、どこどこイベントに行きましたと、市役所の業務報告を見ているような感じです。

「オリンピックって、パラリンピックってこうだよ」というものがあまり伝わってこないというか、魅力が感じられない。何かやっぱり写真だけだと映えないのかなって。

その辺をもっとスポーツ、我々もアスリートですけど、このスポーツの魅力を伝えていきたいっていうのも良いですが、「オリンピック・パラリンピックって何なの」という歴史的なところだったり、トリビア的なところだったり、色んなものがあるんじゃないかなと（思います）。多分、ずっと数カ月間やられて難しい状況なのかなと思うのですが。

スローガン策定の時にワーキンググループを作って、今日も来ていますが、若い方達も一緒になってやることで、いろんなアイデアが出てきました。

そういった中で、若い人も含めた役所だけではない視点で何か

SNS チームみたいなものを作ってやっていくというのも一つ良いんじゃないかなと思います。

最後、ちょっと私の宣伝にもなってしまいうんですけども、パラアイスホッケーの国際試合を真駒内で 12 月の中旬にやることになりました。

日韓戦で、札幌で国内大会も含めて初めての試合になります。

苫小牧と旭川では国際大会を今までやったことあるんですけども、札幌では多分合宿もやったことないんじゃないかなというぐらいです。クラブチームの練習はやっているんですけども、それが真駒内で日韓戦をやる（ことになった）ので。

ただ、特に大会というわけではなくて、うちの協会も人数が全然居なくてせい弱で、自分たちの試合をするだけでもいっぱいいっぱいなので、なかなか協会として PR をして、来た人どうこうっていうところまで正直できないので、このプロモーション委員会で何か企画をしてですね、いろんな人とか子供達に見てもらったり、可能であれば、体験会とかやったり、山下会長にスレッジに乗ってもらって、氷の上に何か体験してもらえると楽しいんじゃないかなと思います。

何かそんなところもやっていけると、リアルにスポーツを通して機運醸成していくというところが、特にこれからウィンターシーズンなので、なかなかジャンプを体験しようというのは難しいと思うんですけども、パラアイスホッケーであれば、特にパラスポーツを知らない方が多いので、そんなのはやってみたらどうかなと思うので、ちょっと提案です。 よろしくお願いします。

岩田会長

はい、ありがとうございます。事務局いかがですか。

事務局

はい、ありがとうございます。ご指摘のとおりです。

(梅田スポーツ局長)

我々札幌の方では、招致期成会と連携をして、様々なイベントでブースの出展、あるいはトークショーを通させていただきました。

今、永瀬委員がおっしゃられたとおり、これからまさにウィンタースポーツシーズンがやってきます。

やはり、このウインタースポーツの魅力というものをより多くの方に知っていただけるような、そういう機会というものをプロモーション委員会、それから札幌招致期成会とも連携しながら取り組んでまいりたいというふうに思っています。

事務局からは以上でございます。

岩田会長

はい、ありがとうございました。森副会長どうぞ。

森副会長

はい、ありがとうございます。今、永瀬委員のお話しされたことと少し関連するんですけども、これから新しいステージと申しますか、想定のスケジュールがあって、少しプロモーションの仕方の変化が起きるんじゃないかなと思うんですけども、この過去4回ぐらいの委員会で、多くの委員の方が話していたことだと思いますけれども、2030というのは市民道民、そして国民が当事者となってこの大会を目指していくということは、おそらく共通のコンセンサスだと思います。

我々がやってきたことは、まず現在地を多くの地元の方を中心に理解していただくということで、プロモーションがスタートしてきて、結構、月日は経ってきたんですけども、やはりメインになっているのは、我々が何かを用意して、そこに市民道民の方に来ていただくという当事者というよりは、むしろ準備する人と、そこでより新しいものを経験していただく方とに、まだ分かれていると思うんですね。

これは段階があるので、最初の部分というのは、当然知っていただくことに比重が置かれるわけですけども、時間がたってより成熟してくれば、市民の方、道民の方がより当事者になって、その当事者となった方が、また他の市民や道民の方を巻き込む、というのがおそらく目指しているところではないかと思います。

そういう意味でこれからステージが変わっていく中で、やはり今までと同じようなパターンで、例えばウインターシーズンの時期に来たら、会場を準備して、そこに来て行って見ていただくということだけですと、あまり大きな殻を破れないのかなというような感じ

がします。

冒頭からあった組織委員会をめぐるいろんな話というのも、我々はそれをどう見てどういう対応をしていくっていう議論はできるんですけども、国民の人がそれをどう見ているのか、道民の人がどう見ているのかというところをやはり恐れずにそこを軸にして、然るに、我々はどうしていくのかという建付けにしないと、時間は経っても、結局大会を考える我々と、大会を見に来るお客様と、そのところの関連性をもうちょっと我々が議論してきた市民道民の皆様による大会というところの原点に、もう一回戻りながら常に活動していくことが望ましいのではないかと、というふうに思っております。以上です。

岩田会長

はい、大変ありがとうございました。

いただきました御意見を参考にさせていただいて、また留意をしながら、今後も機運醸成に努めてまいりたいというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

4. 次第4：招致スローガンの決定について

岩田会長

次に、次第4の招致スローガンの決定について入らせていただきます。

事前にリリースでご連絡をしておりましたけれども、スローガンの議論につきましてはメディア非公開にさせていただきますので、大変恐縮ですが、ここでメディアの皆様にはご退場をお願いいたします。後ほど記者発表にて披露させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

狩野委員

すいません、

岩田会長

狩野さん、どうぞ。

狩野委員

ちょっと変なタイミングで申し訳ありません。ちょっと永瀬委員や皆さんの意見に対して、少しだけお話させていただきたいと思って、タイミングをはかっていたんですけど、すみませんでした。

何度かプロモーション委員としてお声がけをいただいて機運醸成

イベントに参加させていただいて感じたことは、やはりその場に来てくれている方たちは、スポーツに縁があって、興味があって、応援してくれている方が多いのかなって印象を受けていたんですけども、唯一、商業施設でやったイベントに関しては、市長とも一緒にさせていただいて、その控え室でも話をしたんですけども、やっぱり多くの方たちが耳を貸していただいて、立ち止まってもらった時に、まだまだ厳しい目線を感じたっていうのも正直なところで、さっき森副会長も言っていましたけど、市民とか道民の方たちの理解を得て先に進むっていうことを考えると、賛成派の方たちが集まるスポーツイベントのようなものだけじゃなくて、もう少ししっかりと真摯に、反対の人たちや、本当に大会をやる意味があるのかと思ってる人たちとも触れ合える、対話できるような機会っていうのも作られれば、機運醸成のヒントとして何か大きなを得られるのではないのかなと思っていたので、先程のワークショップとかいろんな機会があると思うんですけども、何か今後の活動の内容として、反対な人の意見も聞き入れる。

先程、永瀬委員も SNS とかを使ってとも仰っていましたが、そういうものもしっかりやっていって、根本にあるスポーツ界への疑問というか、疑心暗鬼のところを解決して進んでいくっていうのも大切なのかなと、何度かのイベントに参加させていただいて感じたところでした。

すみません、変なタイミングで。よろしくお願いします。

岩田会長

はい、ありがとうございました。

それでは、本日、招致スローガンの決定をいたします。

それでは、最終案につきまして、事務局より説明を願います。

事務局

それでは、事務局より説明させていただきます。

(梅田スポーツ局長)

右下に番号 19 と書かれたスライドをご覧ください。

まず、プロモーション委員会及びワーキンググループにおける検討経過についてです。

これまで 9 月 8 日の第 4 回プロモーション委員会に加えまして、

ワーキンググループを4回行い、その中で検討を行ってまいりました。

次に、スローガン案作成の考え方についてご説明をいたします。

プロモーション委員会やワーキンググループで出された意見を踏まえ、基本とすべき考え方として、

「変わっていく、変えていく姿勢を伝える」こと、

「クリーンな大会を目指すことを伝える」こと、

「主体的な関わりや参画を促す姿勢を伝える」こと、

そして「大会開催でもたらされるレガシーにより、まちが変わっていくことを伝える」こと、この4つを検討の視点といたしました。

次に、インターネット応募企画について意見募集を行ったところ、招致スローガンの候補3案が出たところでございます。

ワーキンググループで検討の結果、

「世界が驚く、冬にしよう。」

「NAMARA 熱い！真っ白な舞台へ」

「未来のために、いま変えよう。」の3案となりました。

次に、インターネット応募企画の結果についてです。

10月4日から17日までの間に実施し、正当な応募と判断した件数を集計した結果、15,726件のご意見をお寄せいただきました。そして、A案が、一番数が多い結果となっております。

次に、3案への主な自由意見についてご紹介させていただきます。

A案では、

「シンプル、インパクトがある、わかりやすい」といった意見、

B案では、

「北海道・札幌らしい、親しみが感じられる」といった意見、

C案では、

「クリーンな大会を目指すことが伝わる」といったご意見が寄せられたところでございます。

次に、スローガンの最終案についてでございます。

インターネット応募企画の結果を踏まえ、ワーキンググループ

では、A案の「世界が驚く、冬にしよう。」を最終案として決定をいたしました。

また、スローガンの想いを表した説明文も作成したところでございます。

次に、招致スローガンの今後の活用についてでございます。

まずは、本日の公表に合わせた展開といたしまして、新たにポスターデザインなどに使われるキービジュアルを作成したほか、WEBサイト・各種SNSのメインバナーやアイコンを更新いたします。

次に、招致スローガンを活用した当面のPRについてご説明します。

まずは、ポスター・チラシ、横断幕、PR動画等を作成いたします。

次に、具体的な活用策として、招致応援プログラムを通じた関係団体の積極的な活用や、都市装飾・交通広告の展開に加えまして、多くの人々を巻き込んだ取組として、招致スローガンをテーマに、子どもから大人までを対象とした各種キャンペーンを検討してまいりたいと思います。

事務局からの説明は、以上でございます。

岩田会長

はい、ありがとうございます。それでは、ワーキンググループの座長であります木村委員より最終案に込めた思いを含めまして、ワーキンググループの活動の総括として報告をお願いいたします。

木村委員

はい、岩田会長ありがとうございます。

改めまして、ワーキンググループの座長を務めさせていただきました木村でございます。

まずは皆様、プロモーション委員会の皆様の温かいご協力お力添えのおかげを持ちまして、短期間にもかかわらず、このスローガン案を策定することができました。心より感謝申し上げます。

先程事務局からのご説明のとおり、私どもワーキンググループでは、9月から約2カ月間、全4回に渡りまして、招致スローガン策定に向けた検討を重ねてまいりました。

現在、オリンピック・パラリンピック招致について賛否を含めて

さまざまな受け止め方がなされる中、一人でも多くの市民道民国民の皆様への胸に響くスローガンをつくろうと、委員の皆様にもたくさんご意見をいただきながら、メンバー一人一人が前向きに熱い思いを持って真摯に取り組んでまいりました。

外部メンバーとして参加をいただきました3人の学生の皆様からは、若者らしい自由な発想でフレッシュな意見を多く出していただきまして、毎回大変活発で充実した意見交換が行われました。

本日、招致スローガンの最終案として、皆様にお示ししております「世界が驚く、冬にしよう。」は、北海道札幌の持つ魅力ポテンシャルを存分に発揮し、世界を驚かせるようなチャレンジしていこうという決意や、新しい大会、新しい未来をみんなで作っていこうという前向きな思いを込めたスローガンです。

混沌とした社会の中で、未来に向かってみんなが一つになり、明るい希望を持って一歩を踏み出すための後押しをしてくれるようなそんなスローガンができたのではないかと考えております。

あと今回、インターネットや郵送、FAXを通じまして、広く皆様からご意見を募り、2週間で約1万5,000件を超えるご応募をいただきました。その中で5,000件以上の皆様に自由意見をいただいたのですが、その大半はご自身で選択したスローガンへの思いとともに、大会の開催を心待ちにする応援のコメントであふれており、座長として、そしてプロモーション委員会の一員として、私も改めて心を強くした次第でございます。

結びになりますが、今回のスローガン策定にあたりまして、岩田会長をはじめ、プロモーション委員会の皆様のご理解とお力添えにワーキンググループ一同を代表いたしまして、心より感謝を申し上げます。私からの報告とさせていただきます。

ありがとうございました。

岩田会長

はい、ありがとうございました。

それでは、意見交換に入りたいと思います。

ご意見ご質問のある委員は、いらっしゃいますでしょうか。

よろしゅうございますでしょうか。特にないようでございますので、それではこちらの案を招致スローガンとすることにご承認いただけますでしょうか。（異議なし）

はい、ありがとうございます。

本日、ただいまご承認をいただきましたので、「世界が驚く、冬にしよう。」を招致スローガンとすることが決定されました。

この招致スローガンを今後の理解促進や機運醸成で積極的に活用してまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

なお、この会議終了後、ワーキンググループの学生メンバーにもご参加をいただきまして、スローガンの記者発表を行いますので、委員の皆様にも立ち会っていただければ幸いです。

本日の議事は、以上となります。

皆様のご協力を改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。事務局へ進行を戻します。

事務局

はい、事務局より報告いたします。

（梅田スポーツ局長）

今、決定いたしました招致スローガンでございますけども、この招致スローガンを活用した新しいデザインの名刺を作成いたしましたので、本日会場参加の皆様には、この後お配りをさせていただきます。また、オンラインまたは欠席の皆様にも後日郵送させていただきますので、ぜひ積極的にご活用いただければというふうに思います。

5. 次第5：次回会議について（事務局報告）

事務局

次回の会議につきましては、まだ日程が確定しておりませんの

（梅田スポーツ局長）

で、開催時期が決まり次第、事務局から連絡をさせていただきます。引き続き、皆様のご協力を賜りますようを重ねて、お願い申し上げます。

それでは、これで第5回北海道・札幌2030オリンピック・パラリ

ンピックプロモーション委員会を終了いたします。

長時間の会議、ありがとうございました。

芦立委員

ちょっと、よろしゅうございますでしょうか。

すみません。招致スローガンに関してなんですが、これは大変良いものだと思っております。

その時に、ぜひこのスローガンを決定するにあたって基本とすべき考え方というのが、4点にまとめられていますよね。

「変わっていく、変えていく姿勢を伝える」

「クリーンな大会を目指すことを伝える」

「主体的な関わりや参画を促す姿勢を伝える」

(「大会開催でもたらされるレガシーにより、まちが変わっていくことを伝える」)

ここら辺は、出した側として強く表へ出していく、こういう姿勢で、いろんな方のお知恵の中でこのすばらしいスローガンができた。

出発点はここだ、ということをお伝えいただくことが、先ほども大会運営をめぐって東京2020の時のいろんなものを踏まえて、これになってきているということ考えた時に、やはり、この出発点である、招致スローガン決定の基本とすべき考え方というのは大変大事なポイントだと思います。

それが成果物としてきれいなスローガンということであると同時に、出発点はこういう視点だということは強くお伝えいただいた方が、さまざまな賛成だけではなく、反対されている方に対しても、このプロモーション委員会としての考えを伝えていくという意味においては大変大事だと思いますので、そこのご配慮もお願いできればと思いますし、私自身もこういうことだということで、いろんな方にお伝えしていければと思っております、以上です。すみませんでした。

岩田会長

大変ありがとうございます。事務局、よろしいですか。

事務局

はい、ありがとうございました。

(梅田スポーツ局長)

この後の記者発表、それから今後、このスローガンで展開をして

いく際にこの4点の考え方ということについても、併せて訴えていきたいというふうに事務局としても考えてございます。

それではこの後、記者発表が行われますので、皆様、隣の会場の方にご移動をいただければというふうに思います。

どうぞよろしくお願いたします。

第5回 北海道・札幌 2030 オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会
出席者一覧

(五十音順・敬称略)

役 職	氏 名	所 属 等
顧問	室伏 広治	スポーツ庁 長官
会長	岩田 圭剛	北海道商工会議所連合会 会頭 札幌商工会議所 会頭 冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致 期成会 会長
会長代行	秋元 克広	札幌市長
	山下 泰裕	公益財団法人 日本オリンピック委員会 会長
副会長	小玉 俊宏	北海道副知事（鈴木副会長代理）
	森 和之	公益財団法人日本パラスポーツ協会 会長 日本パラリンピック委員会 会長”
委員	秋辺 日出男	アイヌ文化演出家
	芦立 訓	独立行政法人 日本スポーツ振興センター 理事長
	荒井 ゆたか	スポーツ議員連盟 2030年オリンピック・パラリンピック 冬季競技大会招致議員連盟
	伊藤 雅俊	公益財団法人 日本スポーツ協会 会長
	井本 直歩子	一般社団法人 SDGs in Sports 代表
	太田 渉子	パラリンピアン（スキー・ノルディック）
	岡崎 朋美	オリンピック（スピードスケート）
	狩野 亮	パラリンピアン（スキー・アルペン）
	河合 純一	日本パラリンピック委員会 委員長
	木村 麻子	日本商工会議所 青年部 (株式会社 P R 代表取締役)

菅谷 とも子	A N A あきんど株式会社 代表取締役社長 (日本経済団体連合会推薦)
高橋 はるみ	スポーツ議員連盟 2030年オリンピック・パラリンピック 冬季競技大会招致議員連盟
永瀬 充	パラリンピアン (アイスホッケー)
原田 雅彦	オリンピック (スキー・ジャンプ) 公益財団法人 日本オリンピック委員会 理事
日比野 暢子	桐蔭横浜大学 教授
牧野 准子	ユニバーサルデザイン 有限会社 環工房 代表取締役
マセソン 美季	国際パラリンピック委員会 理事
三屋 裕子	公益財団法人 日本オリンピック委員会 副会長
本橋 麻里	オリンピック (カーリング)
米沢 則寿	帯広市長